

令和2年度

石巻市教育委員会の活動状況に関する

# 点検及び評価報告書

(令和元年度実績)

令和2年7月

石巻市教育委員会



# 令和2年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価の実施について

## 1 事業の概要及び目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とあり、実施に当たっては、「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るもの」と規定されております。

教育委員会の活動状況に関する点検及び評価報告書を公表することにより、市民に対する教育行政の説明責任を果たすとともに、適正かつ効率的な教育行政の運営に資することを目的とします。

## 2 根拠法令

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 石巻市教育委員会の活動状況に関する点検及び評価実施要綱（平成20年教育委員会訓令第7号）

## 3 令和2年度 点検評価実施内容について

### (1) 点検・評価の対象事業について

令和元年度に実施した「石巻市教育振興基本計画実施計画」の掲載事業のうち、将来に渡り長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野で9事業、社会教育・保健体育分野で3事業の合計12事業を選定しました。

### (2) 点検・評価の方法について

選定した事業について事業調査票を作成し、令和元年度における実施状況及び成果の自己点検・評価を行い、この結果を基に学識経験者からの意見聴取を実施し、本報告書を取りまとめました。

本報告書については、市議会第3回定例会に提出するとともに、市ホームページに掲載し、公表いたします。

**令和2年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する  
点検及び評価 対象事業一覧**

番号	担当課	事業名
1	学校教育課	石巻子どもの未来づくり事業
2	学校教育課	サイエンスラボ事業
3	学校教育課	「心の教育」推進事業（いじめ、暴力行為の防止）
4	学校教育課	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）
5	学校教育課	国際理解教育推進事業
6	学校教育課	特別支援教育支援員配置事業
7	学校教育課	適応指導教室運営事業
8	学校教育課	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業
9	学校安全推進課	学校防災推進事業
10	生涯学習課	協働教育推進事業
11	体育振興課	スポーツ振興事業
12	図書館	読書環境整備事業

## 令和2年度 石巻市教育委員会の活動状況に関する 点検及び評価に係る意見聴取会

1 開催日時 令和2年6月30日（火） 午後1時30分開会

2 開催場所 本庁舎6階 議会第1・2委員会室

3 学識経験者 3名

氏 名	役 職 等
有見正敏氏	石巻専修大学人間学部人間教育学科特任教授
鍵頼信氏	元石巻市立二俣小学校校長
木村美保子氏	元石巻市社会教育委員

4 意見聴取会の進め方

番号	内 容
1	・意見聴取会手順の確認 進行手順について事務局より説明
2	・事業内容の説明 「令和2年度（令和元年度事業対象）教育委員会の活動状況に関する点検及び評価資料」の事業調査票について ① 事業目的、事業効果及び現状と課題 ②実施状況及び評価（CHECK）③課題・改善（ACTION）の順に担当課から説明
3	・質疑応答 学識経験者から実施状況等について質問を受け、担当課より回答
4	・学識経験者からの意見聴取
※ 1事業ごとに番号2～4を繰り返し行う	
5	・学識経験者から全体を通しての総括的意見を聴取
6	・学識経験者の意見の反映 意見を付した報告書をまとめ、教育委員会において審議

## 5 学識経験者からの意見

### ○ 総括的意見について

有 見 正 敏 氏

将来にわたり、長期的に継続していくべき事業、子どもの安全・安心のため重点的に取り組むべき事業として、学校教育分野9事業、社会教育・保健体育分野3事業について平成30年度の成果と評価を生かしながら取り組まれ、質・量ともに成果を上げることができましたことに敬意を表したいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、事業活動の達成率が若干下がった事業もありますが、他の事業は成果指標が9つの事業で同じ達成率、1つの事業で前年度を上回っております。教育委員会、学校、地域との連携が密に行われている結果であると強く思います。

中でもサイエンスラボ事業、学校防災推進事業、協働教育推進事業はここ3年間継続して高い達成率になっております。理科教育、学校防災、地域全体での子どもたち育成に向けた充実が伺えます。

また、事業を実施するに当たっては、前年度の活動をそのまま踏襲することなく、反省・要望等取り入れて行われており、今後の更なる充実した活動が期待されます。

防災教育については、防災マニュアルの継続的な見直しと、地域の実情に応じたこれまで以上の学校防災体制の構築と、実践的な防災教育の推進をお願いしたいと思います。

小中学校が連携して行われる石巻子どもの未来づくり事業においては、授業公開の実施校が著しく増加しました。授業を公開することは、教師の指導力向上、そして児童生徒の学力向上につながります。全ての学校が公開できることを期待しています。

今後新型コロナウイルス感染症対策のため、難しい面も出てくると思いますが、事業目的に沿った取組をお願いします。教育委員会の働きかけ、そして校長先生のリーダーシップを更に期待したいと思います。

強く要望したいことが2点あります。一点目は事業費についてです。前年度と比べて決算額が下がった事業の中で、桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業は顕著です。全体的な評価は同じですが、成果の達成率は下がっています。達成率を上げるためにも、今後例えば桜坂高等学校の魅力を図るための協議会の発足や、市民からの意見を吸い上げるなど事業費との関わりで再考をお願いしたいと思います。

また、ALTなど増員を必要としている事業がいくつかありますので、御検討をお願いします。

二点目は心のケア充実事業についてです。難しい面もあると思いますが、指標を設定して取り組むことを希望します。

さらには、国府台病院に代わる病院の設定です。心の安定に寄与できるよう引き続き御遺族に寄り添ったきめ細やかなサポートをお願いしたいと思います。

最後に学校再開に伴い、今後も新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、児童生徒が学ぶ喜びや楽しさ、教師と児童生徒、児童生徒同士の信頼関係づくりを回復させる学校づくりを、あせらずじっくりと取り組んでほしいと思います。

そして今後も市民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進に努めてほしいと思います。

鍵 頼 信 氏

大震災からの教育の復興、新型コロナウイルス感染症に対しての緊急事態、そのような中での教育委員会、学校、地域と連携した取組に対しまして、心から感謝申し上げたいと思います。

ここで感じたことや気になった点について二点述べさせていただきます。

一点目は、心のケア充実事業（震災心のサポート事業）、桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業、読書環境整備事業について、活動指標、評価内容の見直しをそろそろ行ってもよいのではないかと思います。

二点目は、いじめの解消についてです。いじめに関しては研修だけではなく、各学校のアンテナの高さと取組姿勢が大切であると思います。学校への御指導をお願いします。

最後に、学校が全ての児童生徒にとって安心して学び、行きたいと思える学校にしていただけるよう、教育行政の推進に努めていただければと思います。

木 村 美 保 子 氏

今回の新型コロナウイルス感染拡大という災禍の中、教育委員会としてまた各学校として、まずは迅速な判断のもとで御対応いただき、休校の実施にあたり、様々な対応、手だてを取っていただき深い敬意と感謝を申し上げます。

ただ、一番の被害者であり心配なのは子どもたちであります。学習はもちろんのことですが、本来、集団で経験すべき様々な体験活動や課外活動を通して、人との思いやりや付き合い方、道徳の会得、協力することの大切さの学びなど、社会の中でどのようなことが必要なかを学ぶ学校の授業以外の大切な時間が減ってしまうのではないかと非常に危惧しております。

学習の遅れを取り戻すことも大切なことではありますが、その他の経験という大事な機会の損失を補っていただくことが、私たち大人の知恵と工夫で必要なのではないかと思いますので、是非先生方の御協力のもと、教育委員会の強い御指導で今後も新しい生活の中で取り組んでいただきたいと思います。

また、協働教育の推進ということで各校に取り組んでいただいておりますが、NPOなどの各団体、地域団体や企業などの力を借りるということも、次代を担う子どもたちのために、コロナ禍ではありますが、更に今後も実践していただきたいと思います。

今後も、地域にある企業の協力やNPO、地域の団体、PTAや町内会の情報提供などもいただきながら、総合的な社会教育も推進していただきたいと思います。

次に、教育行政の予算が変わらないことが気になります。昨今の状況下、均等な予算配分というのも大事かもしれませんが、子どもたちに今できること、今必要な授業というものがあると思います。特に、今回コロナ禍ということで、家庭での時間が増えており、その中で子どもたちが自主的な学習をといても、どのように取り組んだらよいものか非常に苦労していると聞いております。

近隣の市町村や県外では、タブレットの端末の支給などいろいろなことがスピーディーに行われておりますので、早急な予算計上の検討をお願いしながら、石巻の宝である子どもたちの学習環境の整備に、皆様の更なるお力をいただきたいと思います。

## ○ 事業ごとの意見について

点検及び評価の対象事業ごとに記載



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1	事業名	石巻子どもの未来づくり事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	1 基礎・基本の確実な定着	3 学習習慣の定着				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	石巻・子どもの未来づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H21	～	摘要		
事業目的							
児童生徒に夢や希望を持たせ、未来を生きるために必要な確かな学力を身に付けさせるため、教師の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の育成、志を高める取組の視点から、推進地区ごとに小・中学校が連携して実践する。							
事業効果							
教師の指導力が向上し、また学校と家庭が連携した取組をすることにより、石巻市内の児童生徒の家庭学習習慣が定着し、学力の向上につながる。							
現状と課題							
学力を向上させるためには、各地区の学力向上推進実践校で実施する小・中学校が連携した授業研究の成果を、各地区の小・中学校に波及させていくことが必要である。また、確かな学力の基盤となる生活習慣形成のために、小・中学校が接続し、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣化の啓発を図ることが求められる。さらに、教員の指導力向上を図る研修会等の取組が重要である。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
「子どもの未来づくりフォーラム」「学力向上に関わる講演会」の実施			実施				→
学力向上推進地区実践校における教員の指導力の向上、児童生徒の学習習慣の形成、小・中連携による教育環境基盤の充実等の実践			実践				→
学習指導の改善を図る研修会の実施			実施				→
リーフレットの配布			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	学力向上推進地区における授業公開の実施校	校	53	52	52	52	52
成果指標	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合	%	80	80	80	80	80

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況	<p>1 「子どもの未来づくりフォーラム」を1回、「子どもの未来づくり講演会・実践報告会」を1回実施した。</p> <p>2 子どもの未来づくり推進地区・実践校の取組状況や成果を「事業報告書・実践事例集」にまとめて活用した。</p> <p>3 「学習指導の改善を図る研修会」は年14回実施した。</p> <p>4 リーフレット「5つのトライ」を市内全小・中学生に配布し、活用した。</p>
--------------	--

<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	学力向上推進地区における授業公開の実施校						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	53	52	52	52	52	B
		実績	校	31	30	45			
		達成率	%	58.5	57.7	86.5			
	成果指標	指標名	家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	A
		実績	%	92	92	93			
達成率		%	115.0	115.0	116.3				

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	<p>学力向上推進地区における授業公開は、目標値に達成していないが、昨年と比較すると大きく向上している。予習・復習の習慣化は、全ての地区が小中連携の観点で9年間を見通して取り組んでいる。そのことが児童生徒の高い割合で家庭学習に取り組んでいるというアンケート結果に結びついていると捉え、総合評価を「B」とした。</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】</p> <p>学力向上推進地区における授業公開の実施校が前年度と比べて15校も増えています。また、家で授業の予習・復習を継続して行っている児童生徒の割合が、平成29年度以降90パーセントを超えており、小中連携の効果が顕著で高く評価できると感じました。家庭学習の習慣化は、学力向上にもつながります。今後も各地区の連携を強化すると共に、9年間を見通した取組をお願いします。合わせて、カリキュラム作りにも着手するようお願いします。</p> <p>【鍵頼信氏】</p> <p>感染症対策のため計画変更も仕方ないと思いますが、児童生徒にとっては、その学年というのはその時しかないので、登校が再開されたこれからでも、学習習慣の更なる構築と改善を図ってほしいと思います。また、児童生徒の様子をこれまで以上に観察し、実情に合った指導をお願いしたいと思います。</p> <p>さらに、教育委員会と校長会が連携し、児童生徒が安心して学習に取り組める環境を作るようお願いしたいと思います。</p>
------------	--

<p>学識経験者からの意見</p>	<p>【木村美保子氏】  家庭学習の習慣化がかなりできているということですが、小学生の低学年ほど課題を自分で見つけることは厳しいと思いますので、保護者や先生と密にコミュニケーションを取っていただきながら、毎日学習することを習慣化していただきたいことと、家庭学習を頑張ったことに対する目に見える化などの取組も是非お願いします。  3か月の休みの間どの程度の学習ができたかは分からないものですが、課題を自分から見つけることが重要なのだという先生もおられるかもしれませんが、子どもたちは求められていることができないこともあると思います。是非課題の見える化、成果の見える化をお願いしたいと思います。</p>					
<p>課題・改善(ACTION)</p>						
<p>事業を進める上での課題</p>	<p>学校と家庭、小中連携による取組をより一層推進する。感染症対策のため、「学習指導の改善を図る研修会」及び「子どもの未来づくりフォーラム」は計画の変更を余儀なくされるので、代替案で実施することを要する。</p>					
<p>今後の対応方針</p>	<p>次年度以降は事業内容を変更する予定であるが、「学習指導の改善を図る研修会」及び「未来づくりフォーラム」において効果のあった実践や取組を、市内小・中学校に周知し、事業について更に啓発を図る必要がある。</p>					
<p>令和2年度の見込み</p>	<p>新規 <u>継続</u> (<u>拡充</u>・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>					
<p>事業費(決算額)</p>	<p>年 度</p>	<p>H29</p>	<p>H30</p>	<p>R元</p>	<p>R2</p>	<p>R3</p>
	<p>金額(千円)</p>	<p>4,585</p>	<p>4,533</p>	<p>4,797</p>		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	2	事業名	サイエンスラボ事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	1 社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	1 確かな学力の育成	1 確かな学力の育成				
	施策の展開	2 学習意欲の向上	4 指導方法の工夫・改善				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち					
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する					
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐくむ					
	事業名	サイエンスラボ事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H28	～	摘要		
事業目的							
児童生徒が科学への興味・関心をもち、自ら自然を調べようとする態度や能力の育成を目指すとともに、教師の理科指導力の向上、石巻市の理科教育の充実を図る。							
事業効果							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然と関わりながら、科学や自然のおもしろさを感じ取らせることができる。</li> <li>・自ら学ぶ意欲、科学的な思考力の向上が図られ、学力の向上が期待できる。</li> <li>・教師の理科指導の不安が解消され、理科教育の充実が図られる。</li> </ul>							
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性豊かな人材育成のために、自然に親しみ、科学的思考力を高めることが必要である。</li> <li>・小・中学生の理科離れが進行している状況が見られる。</li> <li>・理科指導に関する教員への支援、相談体制の確立、理科指導力の向上策が急務である。</li> </ul>							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
科学巡回教室、親と子の科学教室の実施			実施				→
教材・教具の開発及び教員への提供			実施				→
学校・教員に対する相談活動・研修会の実施			実施				→
企業や研究機関との連携			実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	科学巡回教室の開催回数	回	40	40	40	40	40
成果指標	授業が「分かる」、「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合 【(小学生の割合+中学生の割合) / 2】	%	85	85	85	85	85

実施状況及び評価(CHECK)									
令和元年度の事業実施状況		1 科学巡回教室は、「原子・分子の学習」「宇宙の学習」「科学実験」「ものづくり」等のプログラムで、22小学校、2中学校、3幼稚園で実施した。 2 学校・教員に対する相談活動は、科学巡回教室の際に情報交換を行うとともに、夏季休業に開催した研修会では、すぐに授業で使えて子どもたちが喜ぶことをテーマにした体験講座を実施した。 3 「まちなか実験室」と連携し、3小学校において科学イベントを実施した。 4 けやき教室や公民館行事等でも科学イベントを実施した。 5 企業や研究機関と連携を図り、LED工作教室を実施した。							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	科学巡回教室の開催回数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	40	40	40	40	40	A
		実績	回	42	45	41			
	達成率	%	105.0	112.5	102.5				
	成果指標	指標名	授業が「分かる」「だいたい分かる」と答えた児童生徒の割合。 【(小学生の割合+中学生の割合) / 2】						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	85	85	85	85	A
実績		%	88	89	88				
達成率	%	103.5	104.7	103.5					
【評価基準】		達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価					
		達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	A					
		達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F						
取組の成果及び評価の理由		小学校に加え、中学校、幼稚園についても幅広く科学巡回教室を開催した。楽しく分かりやすい授業により、受講した児童生徒からは楽しさ・理解度ともに高評価を得ている。夏季休業に開催した教員向け理科研修会は教員の理科指導力の向上の一助となっている。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 科学巡回教室の活動指標、成果指標は、それぞれ達成率が100パーセントを超えています。大変充実しており素晴らしいと思います。夏季休業中に科学巡回教室の際に相談活動を取り入れたことは、先生方の理科教育の充実への一助になっていると思います。今後、理科指導における悩み等について、事前にアンケートを取るなどの相談活動を実施すると、更に充実すると思います。  【鍵頼信氏】 引き続き、事業の継続と理科の指導法についての研究を続けていただければと思います。授業日数の確保、理科離れを防ぐためにも、自然に親しむ活動や体験活動等をたくさん取り入れ、また、理科指導における悩み相談を、是非実施してほしいと思います。  【木村美保子氏】 科学巡回教室は素晴らしい活動だと思います。工夫していただいて理科離れを解決するためにも継続してほしいと思います。また、工業港地区や日本製紙を中心とした石巻ならではの工場がありますので、そうした工場ではどのようなものを作っているのかなど、そのような話ができる体制を企業はお持ちですので、民間企業も御活用いただいて今後も盛り上げていきたいと思っています。							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	学校や児童生徒から継続を望む声が寄せられているため、年齢層に合わせたプログラムの充実を図ること。					
今後の対応方針	科学巡回教室の開催校の拡大とプログラムの充実を図る。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	5,152	4,999	5,062		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	3	事業名	「心の教育」推進事業(いじめ、暴力行為の防止)					
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	2 豊かな心の育成						
	施策の展開	3 いじめ、暴力行為の防止に向けた取組の推進						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	いじめ・生徒指導問題対策事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
人間としてのより良い生き方を、主体的に追い求め実践していく児童生徒を育てる。								
事業効果								
人権教育を推進することで、児童生徒、保護者及び教職員の人権意識の高揚、児童生徒の道徳的実践力の向上が図られる。								
現状と課題								
児童生徒の規範意識やモラルの向上のため、心の教育の充実が求められる。道徳教育の充実を柱として人間としてのより良い生き方についての指導をしていく必要がある。								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
いじめ生徒指導問題対策協議会の開催			実施			→		
いじめ防止標語・心のメッセージ集の作成			実施			→		
指 標 名			単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数(小・中・高)		校	54	53	53	53	53
成果指標	認知されたいじめの解消率(H30年度以降、継続事案分は除く)		%	100	100	100	100	100

実施状況及び評価(CHECK)									
令和元年度の事業実施状況		1 石巻市いじめ問題対策連絡協議会の実施（3回実施） 2 石巻市生徒指導問題対策協議会の実施（3回実施） 3 いじめ・生徒指導問題対策に係る研修会の実施（いじめについての講演会の実施、生徒指導対策についての講演会の実施） 4 「いじめ防止標語・心のメッセージ集」の作成・配布 5 「STOPいじめ！石巻市子どもサミット」の開催 6 いじめに係る重大事態に備え、第三者による調査委員会を設置。開催。							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	いじめや生徒指導について対策会議を定期的に行っている学校数（小・中・高）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	54	53	53	53	53	A
		実績	校	54	53	53			
		達成率	%	100	100	100			
	成果指標	指標名	認知されたいじめの解消率（目標値：継続事案分は除く）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	C
		実績	%	77.5	72.8	77.1			
		達成率	%	77.5	72.8	77.1			
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							B		
取組の成果及び評価の理由		平成26年度に策定された「学校いじめ防止基本方針」により、教職員のいじめ防止に対する意識が向上した。また、弁護士を講師に迎えた講演会を実施するなど、組織としてのいじめ認知や解消の見立てについての研修を行ったことが、学校の細やかな取組とつながり、認知件数増加、さらに解消率の低下に関係している。							
学識経験者からの意見		<b>【有見正敏氏】</b> いじめ、生徒指導についての定期的な対策会議を全ての学校で実施されており、いじめの未然防止、早期発見に取り組んでいることが分かりました。 また、事業の内容が充実しており、いじめ問題に関する各種協議会、弁護士を講師に迎えた講演会などが、認知されたいじめの解消率の向上につながっていると思います。 いじめ解消については、文部科学省から出されているいじめ解消の定義を理解しながら取り組んでほしいと思います。今後も各学校においては、道徳教育及び体験活動等の充実を更にお願います。							
		<b>【鍵頼信氏】</b> 事業充実が図られてきているということが分かりました。 今後の大切なこととして、教職員が常にアンテナを高くし、児童生徒の小さな変化を見逃さないという感性を持つことが大切だと思います。 学校全体が一つのチームとして情報を共有し、対応していくことも必要だと思います。 このような時期であるからこそ、これまで以上の児童生徒の見守りが大切だと思います。教育委員会からも御指導をお願いします。							

	<p>【木村美保子氏】          全中学校対象の「STOPいじめ！石巻市子どもサミット」の開催は素晴らしい取組ですので、今後も継続して実施するようお願いいたします。          いじめは小学校の件数が多いようですが、これは一時的な些細なことが我慢できなくて、行動に移ってしまうのかと思います。          小学生であれば、そのときの速やかな対応により大事にならずに済む場合もあると思いますので、子どもの小さな変化を見逃さずに、また、担任の先生だけではなく、他のクラス又は職員室の先生方にも御協力いただきながら、子どもたちの小さな変化、帰るときの背中など、そのようなことも注意して見ていただきながら、大事に至らないようにいじめ対策を行うことをお願いします。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	いじめに対する児童・生徒の心の育成					
今後の対応方針	校内の研修会を継続実施することで、未然防止につながるいじめを生まない風土づくりの推進					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <u>拡充</u> )・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	536	458	473		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	4	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）					
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	2	豊かな心の育成					
	施策の展開	6	震災後の子どもの心のケア					
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標							
	基本施策							
	施策の展開							
	事業名							
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる						
	節	未来の人を育てる*子どものケアの実施						
	細節	被災児童・生徒等への支援、心のケア						
	事業名	心のケア充実事業（震災心のサポート事業）						
担当課	学校教育課	事業期間	H23	～	摘要			
事業目的								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災により心に深い傷を受けた園児・児童生徒等に対し、医療専門家による巡回相談やケース会議、健康実態調査を行い、心のケアを実施する。</li> <li>・死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対して、個別訪問や来室による相談等の支援活動を行う。</li> </ul>								
事業効果								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に深い傷を受けた園児・児童生徒の心の安定が図られる。</li> <li>・死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族からお話を伺うことや、交流会を開催することができた。</li> </ul>								
現状と課題								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達段階や地域の実情に応じた心のケアの充実が必要である。</li> <li>・震災で死亡又は行方不明となった児童生徒等の遺族に対し、可能な限り、心の安定を図ることができるようなサポートを継続的に行うことが重要である。</li> </ul>								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
医療専門家による巡回相談、ケース会議			実施			→		
医療専門家による健康実態調査			実施			→		
遺族に対する個別相談等の支援活動			実施			→		
指 標 名			単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	未設定		/	/	/	/	/	/
成果指標	未設定		/	/	/	/	/	/

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況	<p>1 国府台病院児童精神科医師による巡回相談・支援関係者会議を行った。</p> <p>2 課題を抱える児童生徒についての関係機関とのケース会議に、スーパーバイザーとして参加した。</p> <p>3 幼・小・中・高すべての幼児・児童生徒に健康実態調査を実施し、結果をすべての園・学校に面談を行いながらフィードバックした。</p> <p>4 個別訪問、電話、来室により御遺族からお話しをお伺いすることができた。</p> <p>5 交流会の開催、支援室だよりの発行、支援室会議、サポート会議の開催。</p>
--------------	--

目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	未設定						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値							
		実績							
		達成率							
	成果指標	指標名	未設定						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値							
		実績							
		達成率							

【評価基準】 達成率が100%以上	…A	達成率が80%以上100%未満	…B	総合評価
達成率が60%以上80%未満	…C	達成率が40%以上60%未満	…D	
達成率が40%未満	…E	事業を実施できなかった	…F	

取組の成果及び評価の理由	<p>1 配慮を要する児童生徒についての専門的知見からの助言は、学校での指導や支援に大いに役立つと共に、場合によっては適切な医療機関につながるケースも見られた。</p> <p>2 健康実態調査の結果については学校ごとに面談をし、全体の傾向、配慮を要する児童生徒についての助言があり、学校での指導に大いに活かされていた。</p> <p>3 訪問等により御遺族からお話しを伺うことや交流会に参加していただくことができた。</p>
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 これまで同様に継続的かつ誠意をもって心のケアを実施してほしいと思います。 また、国府台病院に代わる医療専門家の選定を早急をお願いしたいと思います。</p> <p>【鍵頼信氏】 遺族の方々の考えや置かれている状況も更に変化していると聞いていますが、まだ大切な事業であることには変わりありませんので、今後も寄り添った活動をお願いしたいと思います。 指標や評価については、意見が分かれるところだと思いますが、微妙な問題でもありますのでそれぞれ分けて考え、遺族対応の部分は評価は難しい内容ですので今後検討していただければと思います。</p>
------------	---

	<p>【木村美保子氏】  10年経って大分落ち着いた印象を受けるところもありますが、まだ支援が必要な方もいるということを理解させていただきました。  しかし、10年経過し小学校1年生で被災されていれば高校生となっている、中学校1年生であれば大人になっており、この事業が果たして教育委員会の事業として今後継続していくべき事業なのか、それとも別の課が担当すべきかなど今後の事業の在り方について横断的に再考する必要があると思います。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	1 国府台病院との連携は震災後10年の期限が迫り、国府台児童精神科医又は国府台病院に代わる支援が引き続き必要であるため、方策を探る必要がある。 2 心の安定に寄与できるよう引き続き御遺族に寄りそったきめ細やかなサポートを長期的に実施する必要がある。					
今後の対応方針	1 各学校、園の配慮を要する幼児・児童生徒の対応について、今後も継続して専門医の助言を得られるような支援体制を探りながら、事業継続を図っていく。 2 御遺族に対する心の支援はまだ決して十分とは言えない状況であり、引き続きサポートを継続して行く。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	5,783	5,768	5,467		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	5	事業名	国際理解教育推進事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1	社会を生き抜く力の養成				
	基本施策	5	現代社会に対応した教育の推進				
	施策の展開	1	国際理解教育・外国語教育の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち					
	基本施策	新たな時代を創造する人材を育成する					
	施策の展開	広い視野を持つ人材をはぐぐむ					
	事業名	国際理解教育推進事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
小・中・高等学校及び幼稚園、こども園、けやき教室において、A L T（外国語指導助手）との授業を通して、外国語教育と国際理解教育の充実を図る。							
事業効果							
A L Tが幼稚園から高等学校までの教育現場に配置され、また、コミュニティーの行事等へ参加することにより、児童生徒及び地域の人々の外国語学習や国際理解教育の推進に大きな効果が期待される。							
現状と課題							
外国語教育の改革が進み、今後、小学校でのコマ数が増加することから、A L Tの人数を増やし、来校数を確保する必要がある。							
事務事業の概要				年度別事業計画			
				H29	H30	R元	R2
外国語教育及び国際理解教育の実施				実施			>
A L Tの配置				実施			>
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	A L Tの1施設当たりの年間平均訪問日数	日	49	53	53	53	53
成果指標	A L Tとの授業が楽しい生徒の割合	%	85	80	80	80	80

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況	1学期は、市立幼稚園、湊こども園、市立小・中・高、適応指導教室の全59の学校(園)を13ブロックに分け、ALTを13名配置した。2学期はブロックを1つ増やし、14のブロックにALTを14名配置した。それぞれの配置校(園)において、担当教員とのティームティーチングが実践され、ALTとの授業が楽しいと感じる生徒の割合も、89.2%と高い値を示した。
--------------	---

目標の達成状況  ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	ALTの1施設当たりの年間平均訪問日数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	日	49	53	53	53	53	B
		実績	日	44.3	46.1	48.1			
		達成率	%	90.4	87.0	90.8			
	指標名	ALTとの授業が楽しい生徒の割合(中学2年生)							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	85	80	80	80	80	A
		実績	%	75.8	77.5	89.2			
		達成率	%	89.2	96.9	111.5			

【評価基準】 達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価
達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	
達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F	

取組の成果及び評価の理由	令和2年度には小学校中学年で35時間の外国語活動、高学年で70時間の外国語科が完全実施となる。英語教育の改革に伴い、ALT自身が指導力向上への意識を高め、それぞれの所属校の外国語担当と連携しながら授業改善に努めている。また、教育委員会で主催している外国語指導助手配置事業説明会等の機会を通して、ALTの有効活用について各校の外国語指導担当と情報交換を深めることができたことも、ALTとの授業が楽しい生徒の割合が上がった要因と捉える。
--------------	--

学識経験者からの意見	<p>【有見正敏氏】 ALTとの授業が楽しいと感じる児童生徒は年々増えており、ALTの活用の効用が見られていると思います。外国語教育の改革に伴い、特に小学校ではALTのニーズが高まっています。 しかし、1人のALTが4校程度を担当しており、十分な指導を受けられない状況にあると思います。ネイティブスピーカーの英語に触れる機会を増やすこと、それから国際理解教育を推進していくためにもALTの増員を強くお願いします。</p> <p>【鍵頼信氏】 ALTの増員と活用は多くの問題がありますが、児童生徒はALTとの交流が楽しいと答えているようです。今後は、ALTの有効活用と先生方の研修を深めてほしいと思います。 さらに、ALTのモチベーションを高めるためにはどうしたらいいかという点も考えていただければと思います。 また、中学生を「おにぎり大使」として海外に派遣していますが、小学生の高学年も派遣できないかと思っています。</p>
------------	--

	<p>【木村美保子氏】</p> <p>A L Tは子どもたちに明るく接しており、国際理解教育に本当に欠かせない存在だと思います。今後も素晴らしい授業や国際理解教育を進めていただきたい。</p> <p>もしA L Tが足りない状況であれば、J L Tなどの英語教育をされている日本人の先生の活用も可能であると思います。</p> <p>また、石巻市出身で国際的に活躍されている方も多くおりますので、その方々に話をさせていただくことも一つの国際理解教育になると思いますので検討していただくようお願いします。</p>					
<b>課題・改善(ACTION)</b>						
事業を進める上での課題	<p>新学習指導要領では、小学校での外国語の時数が増加し、指導内容もより実際のコミュニケーションを意識したものになる。小学校におけるA L Tのニーズが高まっている中で、本市においては1人のA L Tが4校程度担当しており、児童・生徒が常にA L Tの指導を受けられる状況とはなっていない。今後、小学校へのA L Tの配置数を増やし、一層の指導の充実を図っていく必要がある。</p>					
今後の対応方針	<p>A L Tを増員し、児童生徒数が常にネイティブスピーカーの英語に触れる機会を増やすとともに、地域のイベント等へのA L Tの積極的な参加を促し、地域全体を巻き込みながら国際理解教育を推進していく。</p>					
令和2年度の見込み	<p>新規 <u>継続</u> <u>拡充</u>・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了</p>					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	54,225	59,048	63,922		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	6	事業名	特別支援教育支援員配置事業					
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成						
	基本施策	6 特別支援教育の充実						
	施策の展開	1 学習支援体制の強化						
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち						
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する						
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ						
	事業名	特別支援教育支援員配置事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	学校教育課	事業期間	H20	～	摘要			
事業目的								
障害のある児童生徒が在籍する通常学級及び当該児童生徒に支援員を配置し、学習指導や生活指導の充実と学校生活における安全を保障する。								
事業効果								
小・中学校の通常学級に在籍する特別な支援を必要とする発達障害児等の学校生活に対する意欲の喚起や学習等の能力の育成を図るとともに、学級担任の指導の充実につながる。								
現状と課題								
様々な障害のある児童生徒が通常学級に在籍し、学級担任は配慮しながら指導を行っているものの、担任単独で対応している場合が多く、当該児童生徒への指導や安全確保の面で不十分などところがある。より充実した支援を図るため、継続的に支援員配置拡充及び配置後の支援員の資質の向上を図る必要がある。								
事務事業の概要				年度別事業計画				
				H29	H30	R元	R2	R3
特別支援教育支援員の小・中学校への配置				実施				→
特別支援教育支援員研修会の実施				実施				→
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値	
活動指標	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率	%	100	100	100	100	100	
成果指標	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度	%	100	100	100	100	100	

実施状況及び評価(CHECK)									
令和元年度の事業実施状況		令和元年度は、小学校28校に71名、中学校10校に14名、計38校に85名の特別支援教育支援員を配置した。昨年度より3名多い配置である。各支援員は、校長をはじめ担任等の指示を受けながら、対象となる児童生徒のサポートに努めている。また、令和元年8月30日には「発達障害のある児童生徒への支援」をテーマに、生涯発達支援塾TANE代表 櫻井育子氏を講師として研修会を行った。児童生徒理解や具体的な支援方法を疑似体験やワークショップを通して深めることができた。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	特別支援教育支援員を必要とする小・中学校の充足率						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	D
		実績	%	59.0	45.3	48.9			
		達成率	%	59.0	45.3	48.9			
	成果指標	指標名	特別支援教育支援員配置に対する小・中学校の満足度						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100			
	達成率	%	100	100	100				
【評価基準】		達成率が100%以上	… A	達成率が80%以上100%未満	… B	総合評価 C			
		達成率が60%以上80%未満	… C	達成率が40%以上60%未満	… D				
		達成率が40%未満	… E	事業を実施できなかった	… F				
取組の成果及び評価の理由		小・中学校の通常学級に在籍する発達障害の特性を示す児童生徒の在籍が年々増加している。令和元年度は、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒が昨年度より55人増加している。そのため特別支援教育支援員を昨年度より3名増としたが、充足率は満たしていない。しかしながら、小・中学校で校内体制を工夫した支援員の活用を進めており、満足度は高い現状である。							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 通常学級で支援を必要としている現状において、活動指標は半分に満たない達成率ですが、多く支援員を配置できていること、また、学級担任にとっては指導の充実につながっていると思います。今後も校内体制を工夫した支援員の活用と、一人でも多くの支援員の増員を望みます。</p> <p>【鍵頼信氏】 通常学級における支援を要する児童生徒それぞれに応じた関わり方や支援、ほかの児童生徒との関わり方や影響、学級担任にかかる負担の軽減を考えますと、非常に重要な事業であり今後も一層の充実を図っていただきたいと考えます。 また、支援員の増員と教職員の研修や、児童生徒がそのような子どもたちを受け入れていく心の指導もあわせてお願いしたいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 活動指標である充足率が達成していない状況なので、支援員の増員が必要だと思います。民間や子どもに関わるNPOの団体等も多くありますので、積極的に活用していただき支援員の増員を図っていただくよう引き続き頑張ってくださいと思います。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	発達がアンバランスだったり、社会性に困難を示したりする児童生徒が増えていることが課題である。また、保護者の支援員配置を求めるニーズも高い。					
今後の対応方針	今後も各関係機関が連携し、未就学段階から適切な早期支援を行うと共に、切れ目ない支援の継続と適切な就学支援、進路指導を進め、個別支援がなければ困難さが増大する児童生徒に対し十分な支援ができる体制整備を進めていく。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <del>拡充</del> )・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	80,152	86,326	90,439		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	7	事業名	適応指導教室運営事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	7 不登校児童生徒対策の充実					
	施策の展開	3 不登校児童生徒への支援の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	児童生徒の豊かな心と体、確かな学力をはぐくむ					
	事業名	適応指導教室運営事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H12	～	摘要		
事業目的							
不登校児童生徒個々の実態等に応じた生徒指導、学習指導、適応指導を行い、自立を促しながら学校への復帰を図る。							
事業効果							
不登校児童生徒にとって、学校と違う場所で指導員や友達と関わりながら、学習やいろいろな体験活動を行うことは、学校復帰に向けた大きな支援となっている。学校の行事等をきっかけに学校に部分登校したり、復帰したりした児童生徒もおり、効果は大きいものがある。							
現状と課題							
例年10名前後の通所児童生徒がおり、個々の実情に応じた指導が成されている。「石巻市子どものサポートハウス」が施設内に設置されたことから、不登校児童生徒への相談対応の総合センター的な充実を図る必要がある。また、引きこもり気味の児童生徒のために、訪問指導による支援の実施も検討する必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
通所児童生徒との教育相談、及び学校、保護者との連携			実施				→
児童生徒の実態等に応じた学習指導			実施				→
人間関係、仲間づくりを目的とした体験活動の充実			実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数	件	100	100	100	100	100
成果指標	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）	%	80	80	80	80	80

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況		<p>1 「石巻市こどものサポートハウス」を中心に、児童生徒はもちろん、保護者、学校とも相談しながら連携を図った。</p> <p>2 「けやき教室」では個々の児童生徒の実態に応じて時間割を作り、個別に学習指導を行いながら、外部講師を招いての一斉指導の時間も設定した。</p> <p>3 「体験活動」を年間指導計画に位置付け、他者との関わりを重視する活動を行った。</p>							
<p>目標の達成状況</p> <p>※評価は下記の「評価基準」により記載</p>	活動指標	指標名	不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	件	100	100	100	100	100	B
		実績	件	89	66	81			
		達成率	%	89.0	66.0	81.0			
	成果指標	指標名	通所児童生徒の再登校率（部分登校含む）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	80	80	80	80	80	B
		実績	%	75.0	78.9	77.2			
達成率		%	93.8	98.6	96.5				
【評価基準】 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B		総合評価							
達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D		B							
達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F									
取組の成果及び評価の理由		<p>相談が必要と思われる児童生徒や保護者に対する家庭や学校への訪問相談により、相談件数が依然として高く、評価は「B」とした。適応指導教室に通う全員の再登校に至らず、評価は「B」で、総合評価も「B」とした。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 不登校児童生徒の保護者、担任教諭等との相談件数が増えています。保護者の解決に向けての意識が高まっている証拠であると思います。今後も適応指導教室と学校、それから家庭、関係機関とも連携して取り組んでほしいと思います。</p> <p>【鍵頼信氏】 支援が必要な児童生徒にとっては大切な場所であり必要な事業でもあります。今後は、体験活動の充実を一番に図っていただきながら「石巻市こどものサポートハウス」を始め、保護者や学校教育課とも連携を図りながら充実した事業にしてほしいと思います。</p> <p>【木村美保子氏】 対応を必要とする児童生徒が増加していますが、通所できる児童生徒だけではなく、教室まで行くことができない、訪問しなければいけない児童生徒も多くなっており、予算を増額してでも行うべき事業であると思います。訪問支援も含めて更に充実していただきたいと思います。</p>							

課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	「けやき教室」通所児童生徒数が増加し、発達に障害をもつ割合も高まっている。また、家から出られず「けやき教室」に通えない児童生徒に対する家庭や学校への訪問指導など、より手厚い支援を必要とする児童生徒が増加しており、対応する人員の不足が課題である。					
今後の対応方針	「石巻市子どものサポートハウス」が適応指導教室「けやき教室」内にあるため、児童生徒の実態に応じた通所支援、訪問支援に臨機応変に対応できる。しかし、対応を必要とする児童生徒数が増加していることから、今年度1名増員したけやき教室の指導員を今後も継続配置したいと考えている。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> <u>拡充</u> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	5,202	5,255	5,156		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	8	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成					
	基本施策	1 0 高校教育の充実					
	施策の展開	1 魅力あるカリキュラムの提供、教育内容の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐぐむまち					
	基本施策	「生きる力」を持つ子どもたちを育成する					
	施策の展開	魅力ある高等学校教育を推進する					
	事業名	桜坂高等学校の魅力ある学校づくり事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	学校教育課	事業期間	H25	～	摘要		
事業目的							
桜坂高校の教育の三本柱である「品格教育」、「キャリア教育」、「学力保証」の推進及び充実に図り、生徒の進路希望や興味・関心、社会の動向に対応しながら、人間的な成長と品格の涵養に努め、石巻市の未来を担う人材の育成及び輩出を目指す。							
事業効果							
三本柱の推進及び充実により、桜坂高校の魅力がさらに向上することで、募集定員の確保につながるとともに、石巻市の未来を担う人材の育成が図られる。							
現状と課題							
令和元年度入学生は前年度と比較し31人減となり、学励探求コース・キャリア探求コースともに定員割れが続いている状況である。魅力ある学校づくり事業をさらに推進し、定員の確保に向けて、より一層、教育活動を充実させ「学校の魅力の向上」を図るとともに、「学校の魅力発信」に努め、桜坂高校の魅力を石巻市内外に強力にPRしていく必要がある。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
桜坂高校の三本柱の推進に係る各種講座等の実施			実施			→	
指 標 名		単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）	%	100	100	100	100	100
成果指標	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合	%	70	70	70	70	70

実施状況及び評価(CHECK)									
令和元年度の事業実施状況		<p>生徒一人ひとりの将来の夢実現のために各方面から講師を招いて講座等を実施した。生徒を対象とした各種講座等については以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・品格教育に関わる講座 … 5回</li> <li>・学力保証に係る講座 … 4回</li> <li>・キャリア教育に係る講座 … 19回</li> </ul> <p>特に、地域に貢献できる人材の育成を図るための事業とし、総合的な学習の時間・総合的な探究の時間（桜坂タイム）を活用し、全学年で実施した。</p>							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業の実施状況（各種講座予定回数に対する実施回数の割合）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100			
		達成率	%	100	100	100			
	指標名	市立高校生が本市に住み続けたいと思う割合							
	成果指標		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	70	70	70	70	70	C
		実績	%	51.6	61.8	50.6			
		達成率	%	73.7	88.3	72.3			
【評価基準】		達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価					
		達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	B					
		達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F						
取組の成果及び評価の理由		<p>事業の実施率は100%であった。また、3年生を対象とした5月のアンケート調査において、石巻市への居住志向については50.6%となり平成30年度を下回った。</p>							
学識経験者からの意見		<p>【有見正敏氏】 桜坂高等学校におけるキャリア教育は、勤労観それから職業観を育てる上で重要な教育活動ですが、その講座の回数が前年度から激減しています。そのことが本市に住み続けたいと思う割合が減少している一因になっていないか懸念しています。今後、魅力ある講座を開設するとともに、子どもの未来づくりフォーラムで桜坂高校生徒がファシリテーターを務めたように小中学校の児童生徒と関わる活動を取り入れていくことも必要であると思います。</p> <p>【鍵頼信氏】 桜坂高等学校は、更に総合的な学習の時間などを活用し石巻市の魅力を発信したり、地域の貢献に力を入れて、自分たちに自信を持って、学校や地域の良さを発信してほしいと思います。 今後は、小学生との交流を行うことや、石巻市民のニーズにあった事業、市民との共同事業を更に増やし、また、市民と共同して製品を開発するなどの事業を検討していただきたいと思います。</p>							

	<p>【木村美保子氏】  桜坂高等学校は県内唯一の公立女子高校という貴重な存在だと思います。学校のイメージは中学生が入学したいという動機にもなりますので、在校生の制服の着こなしや生活態度などを教育していただければと思います。</p> <p>キャリア教育は地元企業のインターンシップなどを活用して、地域と一体となっていくことで良い効果を生むと思います。</p> <p>子どもの絶対数が減るという状況で、生徒数を増やすという目標は、相当な努力を続けると難しいと思います。未来の経営計画を進める際に、中高一貫、スポーツや吹奏楽に特化するなど特徴のある学校づくりの検討も必要になると思います。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	石巻地区の中学校における卒業生数は、平成31年から令和10年までの間に300人程度減少する見込みとなっているとともに、令和2年度入試の石巻地区高校の倍率は0.87倍であった。定員を確保するには、より一層、「学校の魅力発信」に努め、市内及び市外からの入学生を増やす必要がある。					
今後の対応方針	女子高ならではの学習、地域と連携した教育活動を充実させることで「学校の魅力向上」を図るとともに、中学校・塾訪問、ホームページの充実、オープンキャンパス、学校公開、ポスターの発行等を通して「学校の魅力発信」に努める。					
令和2年度の見込み	新規 <b>継続</b> ( <b>拡充</b> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	2,476	3,812	3,324		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	9	事業名	学校防災推進事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	2 安全に安心して学ぶための環境づくり				
	基本施策	4 防災教育の充実	2 児童生徒の安全の確保				
	施策の展開	1 防災教育の充実	1 危機管理体制の整備				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標						
	基本施策						
	施策の展開						
	事業名						
復興計画	施策大綱	未来のために伝統・文化を守り、人・新たな産業を育てる					
	節	未来の人を育てるために					
	細節	子どものケアの実施					
	事業名	防災教育充実事業					
担当課	学校安全推進課	事業期間	H 2 3	～	摘要		
事業目的							
児童生徒の発達段階に応じた系統的防災教育を実践するとともに、学校防災の充実のために、学校と地域や関係機関等との連携強化を図る。							
事業効果							
児童生徒の実態及び学校の周辺環境に応じた防災教育が実践され、児童生徒の災害対応力が向上するとともに、学校と地域や関係機関等との連携による災害発生時の的確な緊急対応が可能となる。							
現状と課題							
東日本大震災では、大規模災害時における「公助」の限界が明らかとなり、「自助」、「共助」の力を向上させる防災教育への関心が高まっている。 今後、震災を体験していない児童生徒及び教職員が増えていく。街の復興も進み、目に見える震災の被害が少なくなっていく中で、いかに児童生徒らに震災の事実、教訓を語り継いでいくかが課題である。							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
防災教育、避難訓練の実施			実施				→
防災教育副読本の作成と活用			実施				→
学校防災推進会議による地域と連携した学校防災の推進			実施				→
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	防災教育・避難訓練の実施 (副読本を用いた授業実施)	校	53	52	52	52	52
成果指標	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率	%	100	100	100	100	100

**実施状況及び評価 (CHECK)**

令和元年度の事業実施状況		<p>各学校では、学校の立地に合わせた災害を想定し避難訓練が実施されている。また、緊急地震速報受信機設置校では、同受信機を活用した実践的な避難訓練が実施されている。</p> <p>防災教育副読本については、全ての学校で有効に活用されており、児童生徒一人ひとりに「自分の命は自分で守る」ことの意識を高めることができた。ただ、震災から各学校の実情にも変化が見られ、それに対応できるよう防災教育副読本の改訂作業を行い、令和2年度からの改訂版活用につながった。</p>							
目標の達成状況  ※評価は下記「評価基準」により記載	活動指標	指標名	防災教育及び避難訓練の実施（副読本を用いた授業実施）						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	校	53	52	52	52	52	A
		実績	校	53	52	52			
		達成率	%	100	100	100			
	成果指標	指標名	防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用した防災教育の実施率						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	%	100	100	100	100	100	A
		実績	%	100	100	100			
	達成率	%	100	100	100				
【評価基準】		達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B		総合評価				
		達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D		A				
		達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F						
取組の成果及び評価の理由		<p>各学校では、立地条件や過去の災害状況等を踏まえた避難訓練が実施され、児童生徒らは円滑かつ迅速な避難行動をとることができている。また、緊急地震速報受信機を活用した訓練では、児童生徒はより臨場感を持って訓練に取り組むことができている。</p> <p>防災教育副読本の活用については、発達段階に応じた系統的な指導により、児童生徒に必要な知識や能力を身に付けさせることができた。</p>							
学識経験者からの意見		<p><b>【有見正敏氏】</b> 学校において実践的な避難訓練の実施、防災副読本の活用により、児童生徒一人ひとりが自分の命は自分で守るという意識が高まっていることについては大いに評価できると思います。各学校の防災マニュアルについては、避難訓練を実施しての見直し、地域や関係機関との連携強化を図りながら今後も推進してほしいと思います。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b> 各学校では防災教育の重要性を理解し真剣に取り組んでおり評価できると思います。さらに、様々なケースを想定した防災訓練に取り組んでいただくようお願いします。地域防災連絡会を立ち上げることは大変だったと思いますが、更に高みを目指していただきたいと思います。</p> <p>また、防災副読本の改訂のように、地域の実態も刻々と変化しており、児童の実態も変化していることから、各学校の防災計画も実情に合ったものに改訂していく必要があると思います。教職員等の異動によっても学校の実情が変化していますので、教育委員会、校長会からも指導をお願いします。</p>							

	<p>【木村美保子氏】  地震災害だけではなく、台風被害など様々な災害が予想されます。子どもたちはもちろんですが、教職員や保護者など皆さんがしっかり対応できるよう、常日頃から冷静な判断が可能となる精神状態の安定が必要だと思います。学校内では教職員のコミュニケーションはとれていると思いますが、急な事案にも対応できるよう校内での教職員のチーム作り、地域と学校、教職員との連携についても、マニュアルだけではなくしっかりとした対応をお願いします。</p>					
課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	児童生徒が「自分の命は自分で守る」ことができるよう、災害時に主体的に行動する力を育成するためには、今後も継続して防災教育副読本を活用した防災教育の推進と避難訓練の実施が不可欠であり、地域における公助の面での指導も充実させる必要がある。					
今後の対応方針	東日本大震災から9年以上経過し、防災教育副読本には実情に合わない内容項目があったことから、令和元年度に改訂作業を行い、令和2年4月に改訂版の配布を行った。今後、新たな副読本を活用し、防災教育の推進を図る。					
令和2年度の見込み	新規 <input checked="" type="radio"/> 継続 <input checked="" type="radio"/> (拡充)・縮小 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 期間満了による終了					
事業費(決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額(千円)	4,238	4,684	7,484		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1 0	事業名	協働教育推進事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	3	地域ぐるみで子どもを育てる環境づくり				
	基本施策	2	地域との連携・協働の強化				
	施策の展開	2	地域との連携・協働による学習活動の充実				
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	個性と創造性豊かな未来の担い手をはぐくむまち					
	基本施策	地域全体で子どもたちを育成する					
	施策の展開	地域・家庭の教育力を強化する					
	事業名	協働教育推進事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	生涯学習課	事業期間	H18	～	摘要		
事業目的							
「子どもたちの抱えるいじめ、不登校、学力や体力の低下等の諸問題の解決」並びに「生きる力をはぐくむ教育活動の充実・改善」という課題解決に向けて、「学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働し、社会の中でたくましく生きる子どもたちを地域全体ではぐくむ協働教育」を推進する。							
事業効果							
各学校において、学校・地域・家庭が、それぞれの機能を果たしながら協働する多様な「協働教育」のプログラムが創出され、様々な実践が展開できる。このことにより、児童生徒の学習活動の質を高め、学ぶ意欲をはじめとする確かな学力の向上、多様な人々との関わりや体験を通じた豊かな心の育成が期待できる。また、協働教育への協力を呼びかける中で、新たな人材との出会いが生まれ、活動の充実につながる事が期待できる。							
現状と課題							
令和元年度は、3年継続した4校が外れ、新規5校を加え計15校で事業を実施した。各実施校では、新たな取組と併せて、これまで取り組んできた活動を保護者や地域住民と協働して実施した。実施校全体での事業回数は522回、参加ボランティアの延べ人数は6,178人であった。協働教育支援会議における実施校の報告及び意見交換は、それぞれの小・中学校区の協働教育を改善・充実させる有益な情報となっている。令和2年度も15小・中学校区で実施しているが、事業終了後の学校に対しての支援の在り方や、各小・中学校区に地域コーディネーターとしての資質を備えた人材の配置と育成が課題である。							
事務事業の概要		年度別事業計画					
		H29	H30	R元	R2	R3	
協働教育推進委託事業		実施				▶	
協働教育支援会議の開催（年2回） 協働教育フォーラムの開催		実施				▶	
石巻市協働教育コーディネーター委嘱事業		実施				▶	
学校支援地域コーディネーター委嘱事業		実施				▶	
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数	学校数	9	14	15	15	15
成果指標	学校と地域による協働教育を実施している学校数	学校数	53	52	52	52	52

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況		協働教育推進事業は、市内15校の小・中学校で実施した。協働教育支援会議は年2回、6月と1月に開催し、協働教育フォーラムは2月に開催した。協働教育コーディネーターは、市内全小学校の教職員を対象として計33名を委嘱(各校1名)、また、市内各小・中学校区の地域住民等を対象として計17名を学校支援地域コーディネーターとして委嘱した。							
目標の達成状況 ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	協働教育推進委託事業による協働教育組織の再編・設置数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	9	14	15	15	15	A
		実績	学校数	9	14	15			
		達成率	%	100	100	100			
	成果指標	指標名	学校と地域による協働教育を実施している学校数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	学校数	53	52	52	52	52	A
		実績	学校数	53	52	52			
		達成率	%	100	100	100			
<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 … A 達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C 達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E 事業を実施できなかった … F							総合評価		
							A		
取組の成果及び評価の理由		令和元年度は15校の小・中学校で事業を実施することができた。各実施校では、地域の住民や企業等と協働した教育が行われ、児童・生徒にとって、郷土芸能や地場産業などの理解を深める有意義な活動になった。また、協働教育推進事業実施校以外の各小・中学校も協働教育に取り組んでいることから「A」とした。							
学識経験者からの意見		<p><b>【有見正敏氏】</b>                  地域、家庭の教育力を強化するために、地域全体で子どもたちを育成する協働教育はこれまで以上に推進する必要があると思います。                  活動指標・成果指標とも毎年100パーセントの達成率であり、充実した事業となっていることは高く評価できます。                  学校、地域、家庭がそれぞれの機能を果たしていくためにも、今後も地域住民のコーディネーターの配置等の充実をお願いしたいと思います。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b>                  学校、家庭、地域が連携して児童生徒を育てていく、見守っていくことは大変素晴らしいことでその成果も出ていますので、引き続き推進していただくようお願いします。                  さらに、協働教育コーディネーターの整備と合わせ、各地域へも人的サポートをお願いしたいと思います。</p> <p><b>【木村美保子氏】</b>                  この事業の参加ボランティア数も大変多い状況で評価できる事業であると思います。                  地域で地域の人たちが子どもたちと一緒に育てたいという思いをかなえる一つのツールにもなりますので、これからも連携して実施していただきたいと思います。</p>							

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	各小・中学校区で地域と学校との協働活動を推進していくためには、地域の人材発掘と活動推進の核となる学校支援地域コーディネーターの配置及び組織的・継続的な仕組みが必要である。					
今後の対応方針	各学校の教職員及び学校支援地域コーディネーターと研修会や会議等の機会を活用しながら連携し、人材発掘も含めた各種情報の共有を図り、事業を進めていく。また、各小・中学校区で実践されている協働教育の取組については、今後も継続して発信していく。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <u>拡充</u> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	1,717	2,417	2,404		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1 1	事業名	スポーツ振興事業					
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	1 社会を生き抜く力の養成	4 豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進					
	基本施策	3 健やかな体の育成	2 生涯にわたるスポーツ活動の推進					
	施策の展開	2 学校や地域における子どもの運動やスポーツに親しむ機会の充実	1 スポーツ活動の機会の充実	3 スポーツに対する意識啓発				
【他の計画における位置づけ】								
総合計画	基本目標	心ゆたかな誇れるまち						
	基本施策	市民が個性を活かして輝ける機会をつくる						
	施策の展開	市民の主体的なスポーツ活動を支援する						
	事業名	スポーツ振興事業						
復興計画	施策大綱							
	節							
	細節							
	事業名							
担当課	体育振興課	事業期間	H17	～	摘要			
事業目的								
市民の健康づくりと交流促進、成人のスポーツ実施率の向上やスポーツ少年団加入率の向上等を目指す。								
事業効果								
平成29年度に策定した石巻市スポーツ推進計画の到達目標である「成人の週1回以上のスポーツ実施率を宮城県水準へ押し上げる」及び「子どもたちの体力と運動能力を全国水準へ押し上げる」ことが期待できる。								
現状と課題								
各種スポーツ事業は、NPO法人石巻市スポーツ協会を始めとした関係団体と連携した企画・運営や実技指導などの結果、参加人数は増加傾向にある。今後も、NPO法人石巻市スポーツ協会との協働体制を継続し、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。								
事務事業の概要			年度別事業計画					
			H29	H30	R元	R2	R3	
いしのまき復興マラソン			実施				→	
いしのまき市民スポーツフェスタ			実施				→	
いしのまきキッズ交流大会 兼 石巻市スポーツ少年団交流大会			実施				→	
スポーツ教室（キッズバラエティ・体育館スポーツ教室）			実施				→	
指 標 名			単位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	事業開催数		回	6	6	6	6	6
成果指標	参加者数		人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000

実施状況及び評価(CHECK)

令和元年度の事業実施状況		NPO法人石巻市スポーツ協会を始めとした関係団体との連携により、スポーツ振興事業の目玉と位置付け、震災時に寄せられた多くのご支援への感謝と復興状況を全国に伝えるべく実施している「第5回いしのまき復興マラソン」や、「いしのまき市民スポーツフェスタ」などを実施した。							
目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	事業開催数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	回	6	6	6	6	6	B
		実績	回	6	6	5			
		達成率	%	100	100	83.3			
	成果指標	指標名	参加者数						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価
		目標値	人	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	A
		実績	人	4,729	5,936	5,437			
		達成率	%	118.2	148.4	135.9			
【評価基準】		達成率が100%以上 … A	達成率が80%以上100%未満 … B	総合評価					
		達成率が60%以上80%未満 … C	達成率が40%以上60%未満 … D	A					
		達成率が40%未満 … E	事業を実施できなかった … F						
取組の成果及び評価の理由		いしのまき復興マラソンは、笹かまぼこ無料配布コーナーや復興パネル展、更には健康ブースや観光ブースを設けることで、県外参加者へPRしたが、内容の充実化を図るため、実行委員会との協議を密にしながら一層の工夫が必要である。なお、いしのまきキッズ交流大会兼石巻市スポーツ少年団交流大会及びスポーツ教室の一部については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。 今後も、NPO法人石巻市スポーツ協会との協働体制を継続しつつ、行政主導から民間主導への移行を進めるとともに、「成人のスポーツ実施率の向上」や「子どもたちの体力と運動能力の向上」を目標に掲げ、本市の復興状況と照らし合わせ、多くの市民が参加しやすい環境の整備や参加意識の向上に努めたい。 活動指標評価はBであるが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものであり、成果指標は目標値を達成していることから、総合的な評価は「A」とした。							
学識経験者からの意見		【有見正敏氏】 新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった事業がある中で、参加人数が目標値を上回っておりスポーツに対する市民の意識が高く、担当課を始め各種団体の御努力に敬意を表します。今後も市民が参加しやすい環境整備や参加意識の向上に努めていただきたいと思います。  【鍵頼信氏】 これから事業を推進しているときに新型コロナウイルス感染症の影響で大変苦勞されていると思いますが、その中でも少しずつ状況を見ながら、市民の健康のためにできる範囲で事業を進めていただければと思います。  【木村美保子氏】 本市はスポーツのまちということで、様々な機会を設けていただいていることに感謝申し上げますが、新型コロナウイルス感染症により現在の状況は残念だと思います。このような状況でも子どもたちがストレスを溜めずに運動することができればと思いますので、簡単に運動できる楽しい動画などを作り学校の休み時間に流したり、また、家でもできるスポーツ、簡単体操などの実施についても検討していただきたいと思います。							

課題・改善(ACTION)						
事業を進める上での課題	「いしのまき復興マラソン」の令和元年度は、昨年度から約200人の増加となったが、基本的には第1回大会と比べ減少傾向であり、関係団体と連携を密にし参加者増加に向けた取り組みを検討する必要がある。また、「いしのまき復興マラソン」の名称について、震災から10年が経過することから、変更について関係機関との協議を行っている。					
今後の対応方針	スポーツ振興事業の発展のためにも、委託先であるNPO法人石巻市スポーツ協会の組織強化が急務であり、組織強化に向けた取組が必要となる。					
令和2年度の見込み	新規 <u>継続</u> ( <u>拡充</u> ・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	4,214	5,214	5214		



## 教育委員会の活動状況に関する点検及び評価調査票

番 号	1 2	事業名	読書環境整備事業				
石 巻 市 教育振興 基本計画	施策目標	4	豊かな地域社会を育む学習・スポーツ・文化の推進				
	基本施策	1	生涯学習の推進				
	施策の展開	学習環境の充実					
【他の計画における位置づけ】							
総合計画	基本目標	心豊かな誇れるまち					
	基本施策	市民が個性を生かして輝ける機会をつくる					
	施策の展開	市民の主体的な学習活動を支援する					
	事業名	読書環境整備事業					
復興計画	施策大綱						
	節						
	細節						
	事業名						
担当課	図書館	事業期間	H20	～	摘要		
事業目的							
<p>図書館法第3条に基づき、必要な資料を収集し市民の利用に供する。公立図書館は「図書、記録その他必要な資料・情報を収集、整理、保存して、市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、市民の教育と文化の発展に寄与する」ことを目的としている。これらを踏まえ、市民の要望に応えるため、魅力ある図書資料や情報の収集・提供に努め、図書館サービスを推進する。</p>							
事業効果							
<p>貸出冊数は、震災の平成23年度は167,048冊に激減し、その後回復傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度は258,645冊となった。資料の収集については、東日本大震災や郷土に関する資料を積極的に保存し、読書活動の推進については、乳幼児・児童への各種おはなし会の開催、また渡波、蛇田公民館での出張図書館の実施等により、館内外で利用促進に努め、市民の図書に親しむ環境作りにつなげた。</p>							
現状と課題							
<p>各分野において多様かつバランスの取れた資料構成への見直しや、ビジネス書等、社会情勢の動向を考慮し最新の情報及び利用ニーズに留意し収集する必要がある。 また、読書環境を充実させた上で、子どもの読書活動を推進し、活字離れや読解力低下傾向の緩和に努めなければならない。</p>							
事務事業の概要			年度別事業計画				
			H29	H30	R元	R2	R3
図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施			実施				>
生涯学習の場として資料・情報を提供			実施				>
児童書及び子ども読書活動推進に係る図書の充実			実施				>
学校支援事業による学校図書館との連携			実施				>
指 標 名		単 位	H29目標値	H30目標値	R元目標値	R2目標値	R3目標値
活動指標	年間購入冊数	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900
成果指標	年間貸出冊数	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000

**実施状況及び評価(CHECK)**

令和元年度の事業実施状況	①図書、記録その他の資料を収集・整理・保存の実施については、計画どおり資料を購入し、提供することができた。 ②生涯学習の場としての資料・情報提供については、学びの場として新刊図書情報提供や一般教養事業の開催により実施することができた。 ③児童及び子ども読書活動推進に係る図書の充実については、出版されている絵本や児童書は可能な限り購入することとし、図書の充実に努めた。 ④学校支援事業による学校図書館との連携については、図書館司書が講師を務める学校司書研修を3回(6日)、学校図書館訪問を5回実施した。
--------------	--

目標の達成状況  ※評価は下記の「評価基準」により記載	活動指標	指標名	年間購入冊数													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">単位</td> <td style="width: 10%;">H29</td> <td style="width: 10%;">H30</td> <td style="width: 10%;">R元</td> <td style="width: 10%;">R2</td> <td style="width: 10%;">R3</td> <td style="width: 10%;">評価</td> </tr> </table>		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価							
		目標値	冊	6,900	6,900	6,900	6,900	6,900	B							
		実績	冊	6,761	6,738	6,634										
	達成率	%	98.0	97.7	96.1											
	成果指標	指標名	年間貸出冊数													
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;">単位</td> <td style="width: 10%;">H29</td> <td style="width: 10%;">H30</td> <td style="width: 10%;">R元</td> <td style="width: 10%;">R2</td> <td style="width: 10%;">R3</td> <td style="width: 10%;">評価</td> </tr> </table>		単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価						
			単位	H29	H30	R元	R2	R3	評価							
		目標値	冊	317,000	317,000	317,000	317,000	317,000	B							
実績		冊	280,433	290,726	258,645											
達成率	%	88.5	91.7	81.6												

<b>【評価基準】</b> 達成率が100%以上 … A      達成率が80%以上100%未満 … B 達成率が60%以上80%未満 … C      達成率が40%以上60%未満 … D 達成率が40%未満 … E      事業を実施できなかった … F	総合評価  B
---	---------------

取組の成果及び評価の理由	図書の年間購入冊数及び年間の貸出冊数いずれも目標値に達していない。このことから、更なる読書推進が必要と考え評価を「B」とした。 なお、学校司書研修では図書館の基本的実務や、読み聞かせ実技研修などにより、学校司書のスキルアップ及び学校図書館の環境整備、運営向上につなげることができた。
--------------	--

学識経験者からの意見	<p><b>【有見正敏氏】</b>                  活動指標、成果指標とも目標値には達成していませんが、図書情報提供、一般教養の事業の実施、児童図書の充実に努めるなど努力がうかがえます。学校支援活動については今後も充実すること、及び児童生徒の読書活動を更に推進してほしいと思います。                  また、市広報、ホームページ、移動図書館を更に充実し図書館利用状況も指標にしながら取り組むよう希望します。</p> <p><b>【鍵頼信氏】</b>                  今後も事業を推進し、市民が使いやすい魅力ある図書館づくりを目指していただきたいと思います。                  図書館の使い勝手は立地に問題があると思いますので、立町や市役所の空きスペースがあれば市民にとって本が身近に感じて活用しやすいと思います。また、移動図書館車も継続していただきたいと思います。</p> <p><b>【木村美保子氏】</b>                  移動図書館が終了したのは非常に寂しいことで、今の時代ではいろいろな方法があると思いますが、これは再考していただきたいと思います。                  また、各支所や公民館などにミニ図書館を設置することなど市民が歩いて行ける範囲の中で自由に図書が選べるよう検討をお願いします。                  成果指標の年間貸出冊数は同じ人が繰り返して借りることもありますので、新規の利用者数などの指標も必要だと思います。</p>
------------	---

課題・改善(ACTION)

事業を進める上での課題	人口1人当たりの資料費は、平成30年度で県内平均166.06円に対し、86.71円となっている。さらに、雄勝分館が令和3年度に復旧し、業務を開始することから、資料費の増額についての検討が必要になっている。					
今後の対応方針	図書館の利用状況、市の財政状況及び人口規模等を勘案し検討していきたい。 また、子どもが身近な環境で本に親しむ機会が増えるよう、今後も学校支援事業は継続して取り組んでいく。					
令和2年度の見込み	新規 <b>継続</b> (拡充・縮小) 休止 廃止 期間満了による終了					
事業費 (決算額)	年 度	H29	H30	R元	R2	R3
	金額 (千円)	12,000	12,000	12,000		